



学校だより アンケート特集号

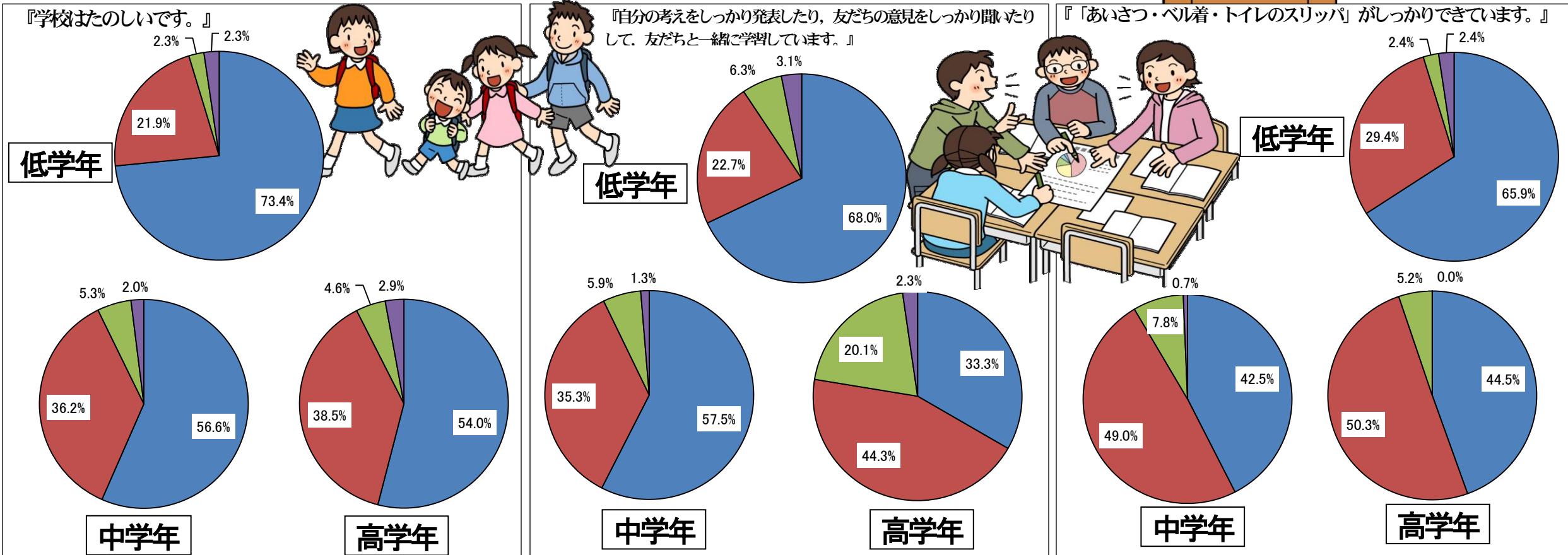
平成31年1月
京都市立桂東小学校
校長 和田英明

後期の児童アンケート結果です。結果の集計とそこからわかる傾向と今後の課題について、考察してみましたのでお知らせいたします。

低学年・中学年・高学年と学年が進むにつれて各項目の割合はどう変わっていくかを調べました。



子どもたちのアンケート結果から（1）



“とても楽しい” “まあまあ楽しい”を合せた割合を前期と比べると、低学年・中学年・高学年ともにほとんど差異はなく、いずれも92~97%ぐらいを推移しており、高学年も結構高い数字となっております。しかし、“とても楽しい”だけを前期と比べると、低学年で6.0%伸びていますが、中学年では15.4%、高学年では14.4%減少してきています。

また、前期は“楽しくない”はどの学年も0%でしたが、2.0%~2.9%を推移しています。高学年になっていくと“楽しくない”が増えています。この時期は6年生にとっては卒業が迫ってきており、自分のめあてをもち、モチベーションを持續して主体的に取り組めるような行事や部活動など…が終わっていく中で、前期と比べてみて充実感・成就感を感じることが少なくなっています。このような結果になっているのかもしれません。常に、夢中になれる何かを見つけて取り組んでいくことが大事だと思います。その他、いろいろな要因も考えられます。ご心配なことがありましたら、担任にご相談ください。

前期では、“出来ていない”はどの学年も0%でした。“あまり出来ていない”は、低学年9.6%、中学年1.4%、高学年1.7%と低学年の否定的な回答が高くなっていました。今回は、“出来ていない”と“あまり出来ていない”とを合わせると、低学年は前期と同じですが、中学年は7.2%、高学年は22.4%と否定的な回答が躍躍的に伸びています。2学期末にアンケートを取りましたので、日々の学習もテストが普段よりも多く、みんなで話し合う学習が少なかったので、このような結果になったのかもわかりません。

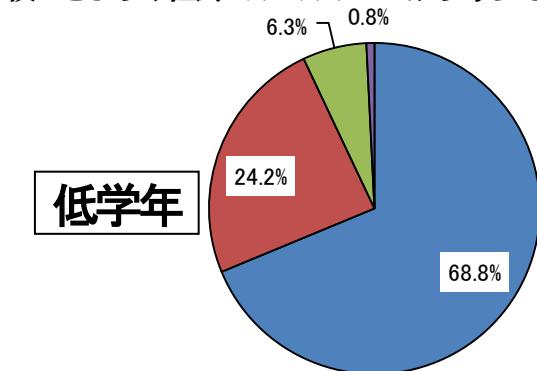
京都はいち早く来年度から新教育課程をスタートします。「主体的・対話的で深い学び」を目指して、発達段階に応じて段階的に自ら学びに向かう力を育てていきたいと思います。1年生は、徹底的にしっかりと「聞く」、しっかりと「話す」指導に力を入れています。また、自分の考えが深まったり、変容していく様子が実感としてとらえられるような話し合い活動に取り組んでいきたいです。

前期は“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせると低学年・中学年・高学年ともにほとんど差異はなく、いずれも96~98%ぐらいを推移しており、高学年も98.9%とかなり高い数字となっており、“出来ていない”がいずれの学年も0%でした。今回、“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、前回よりも少し低いですが、どの学年も90%超えでした。しかし、“よく出来る”が低学年は10%、中学年は45.9%、高学年は44.5%、前期より低くなっています。

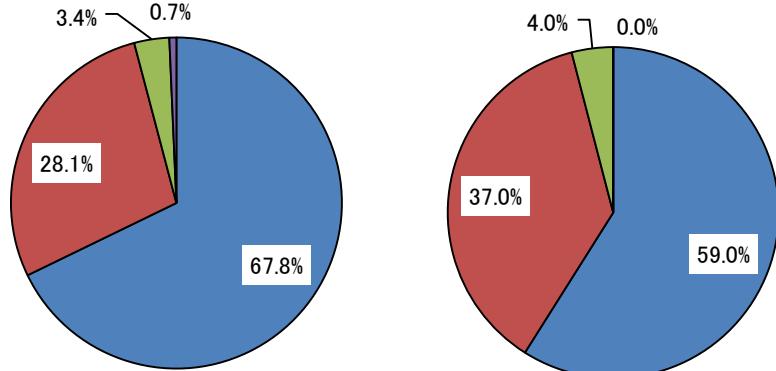
子どもたちには、よりわかりやすく成果が見えやすいようにと「あいさつ・ペル着・トイレのスリッパ」という言葉を合言葉に取り組んでいます。「時を守り、場を清め、礼を正す」人として大切なことが集約されている言葉です。今後も、“人・もの・時間を大切にする”この3つの観点で、学校と家庭・地域で共に子どもたちを育てていきたいと思っています。ご理解・ご協力よろしくお願ひいたします。

子どもたちのアンケート結果から（2）

『学校のきまりや社会のルールをしっかり守っています。』



低学年



中学年

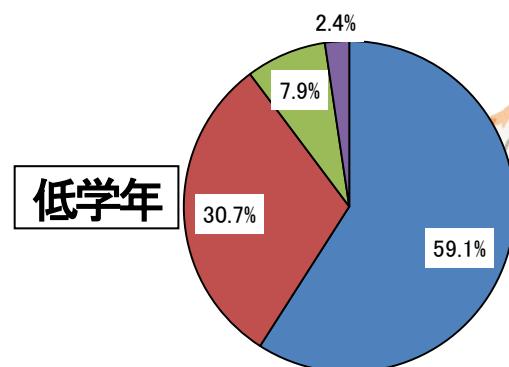


高学年

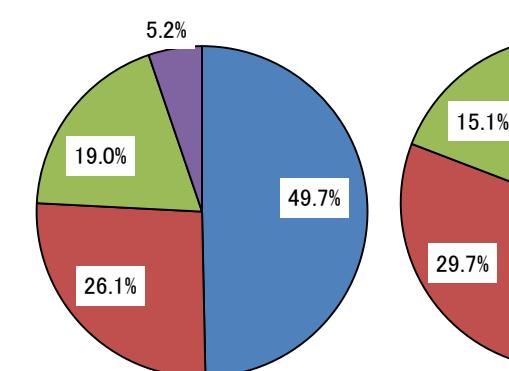
前期は“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、低学年・中学年・高学年ともにほとんど差異はなく、96%～97%と高水準を推移していました。後期も肯定的な回答は同じような推移を示しています。しかし、“あまり出来ていない”と“出来ていない”とを合わせた否定的な回答は、低学年3.3%，中学年0.1%，高学年1.4%高くなっています。保護者アンケートの実現度では、“よく出来ている”が34.3%と低い結果となっております。子どもたちと保護者の間にこれほどの温度差があるのは、学校では出来ているが、家庭や地域では出来ていないということになると思います。

規範意識の重要性が言わぬ始めて久しいですが、「あいさつ・ペル着・トイレのスリッパ」に通じる話だとも思います。あいさつについては、「誰にでも…」というのは恐いと感じられる保護者の方もおられるようですが、あいさつの大きさを指導していただければ…と思います。また、家庭教育を土台のもと、学校においてきまりを守ること及び他者との関わりを大事にするための具体的な活動を通じて育まれるものと考えています。ご家庭では、各ご家庭の事情に合った指導で子どもたちの規範意識を高めていただければ…と願っております。

『家で学校のことをよくお話しします。』



低学年

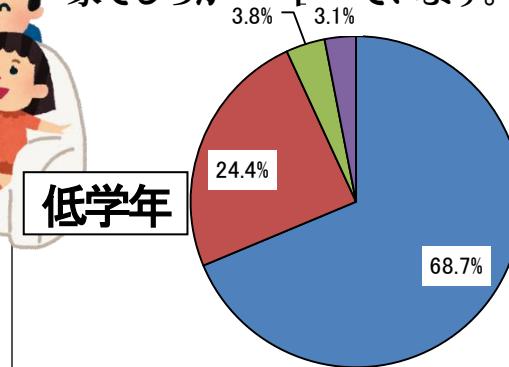


中学年

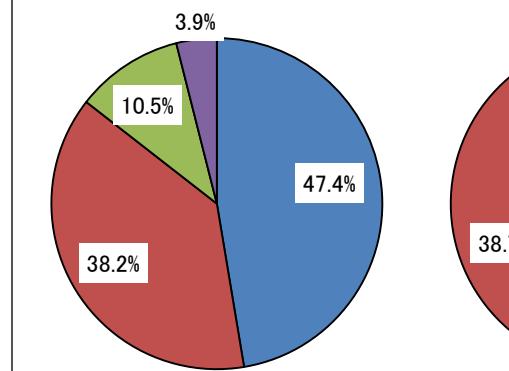


高学年

『家でしっかり学習しています。』



低学年



中学年



高学年

“よく出来ている”が低学年に比べて高学年が低くなっています。“あまり出来ていない”と“出来ていない”とを合せるた否定的な回答は、中学年が一番高く、高学年と続いております。

中学年の場合、学校で学習した内容でわかったところ、わからなかつたところが、十分自覚できていよいように感じます。まだまだ低学年のようにご家庭でも丁寧に聞いてあげることで、お子たちにとっても何を勉強したか、どこがわからぬかなど、はっきりしてきて、安心して学習に取り組んでいくことができるよう思います。いろいろな方法はあると思いますが、このことを繰り返すことで、家庭での学習の習慣化を図ってみてはいかがでしょうか。

新教育課程では、「主体的・対話的で深い学び」が掲載されています。これをどのようにとらえるか、いろいろな考えがあると思いますが、「主体的」と“家庭学習”はつながっていると思います。学年によっては自主学習ノートで家庭学習を積み上げています。小さな成功体験を積み重ねながら達成感を味わっていくことで、主体的な学習への意欲を高めていくことにつなげなければと考えています。

小さい頃に、よく学校のことを家で話していたのに、高学年になると、つれて、話さなくなり、同時に思いも伝えられないと思うようになります。時間的な制約があったり、生活時間のズレがあったり、照れくさくなったりと、年齢と共に変化はしていきますが、やはり会話をする時間を確保することが必要だと思います。

